

## 第4回都市防災会議に参加し研究成果を発表しました（2016/10/17-20）

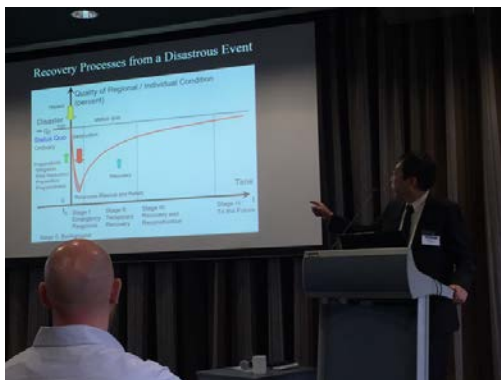
テーマ：都市環境、持続的な災害復興、2011年カンタベリー地震、東日本大震災  
 場所：ウェリントン、クライストチャーチ・ニュージーランド

2016年10月17日から20日にかけて、ウェリントンとクライストチャーチにて、The 4th International Conference on Urban Disaster Reduction (ICUDR)が開催され、当研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が研究成果を発表しました。

地域安全学会とアメリカ地震工学会（EERI）は1984年から2003年にかけて計7回の日米都市防災会議を開催し、連携を深めてきました。ICUDRは日米都市防災会議を引き継ぎ、参加国としてニュージーランド、台湾、韓国を加え、2005年神戸大会以降、数年おきに開催されています。

村尾教授の発表は“A Report on Difficulty in Daily Life after the 2011 Great East Japan Earthquake”と題して行われ、東日本大震災の住宅および社会基盤に関する定量的な復興過程とライフラインによる生活支障についての報告がなされました。19日から20日には、2010年および2011年カンタベリー地震で被災したクライストチャーチを訪れ、大聖堂や商業施設の復興状況を視察するとともに、市長、ライフライン会社、先住民マオリらの復興状況について話を伺い、今後の都市防災の将来について、活発な議論を交わすことができました。

また次回のThe 5th International Conference on Urban Disaster Reduction (ICUDR)は、東日本大震災10周年を迎える2021年に仙台で開催されることが決定されました。



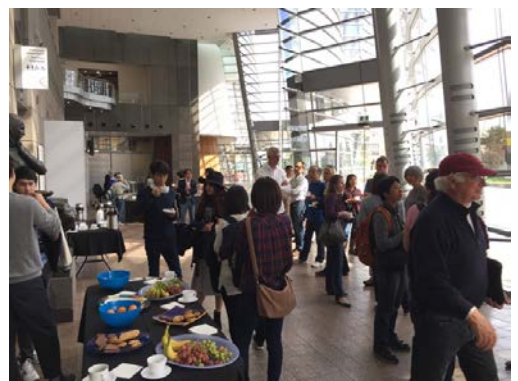
村尾教授のプレゼンテーション



参加者集合写真



クライストチャーチ大聖堂



クライストチャーチ市長講演時の談話風景